

现在普通的日本国民身上。那天画画的时候，我默默地祈祷着和平的希望和中日之间未来的友好。

通过波尔卡斯先生的工作坊，我尝试了以前都没有做过的游戏和活动，感到蛮有意思的。当我们做到两人互相说“太过分了”“对不起”的游戏时，我的心里很难受。还有把自己的经历和听过的故事改编成戏剧的活动也给我留下了深刻的印象。把自己的伤痛说给别人听果然是一件痛苦的事，但是如果不向人倾诉的话是不会得到解脱的。听了幸存者常大爷的故事，我完全明白他们想要诉说的心情。我们必须把那段无法抹去的历史告诉所有的中国人和日本人。如果不明白战争的残酷，人们是无法守护和平的！我真是佩服大家在下午的“人体雕刻”活动时所表现出的想象力，大家都充分地表现出了自己心里的创伤和对和平的渴望。

参拜燕子矶纪念碑的时候，日本的朋友们都双膝跪地，这让我深受感动。就在他们哭出声的那一瞬间我也禁不住留下了眼泪。站在旁边的一位老婆婆也很感动。我想，死在燕子矶的那5万军民也能安息了吧。

下午捏粘土的活动中，我捏了一个“希望”。形状是一只中国的手、一只日本的手，两只手连在一起，中间长出一棵嫩苗。借以祈祷中日和平。经过四天的工作坊，我的心里感受颇多，有些混乱。从今天起，我要竭尽全力，把自己知道的这些事情告诉身边的每一个人。和大家在一起的这段时间我感到很开心。这次真是承蒙大家照顾，我仍然期待着下一次聚会。

17

四日間を振り返って

戴シンイ（立命館大学、臨床心理学）

中国に行く前に、日中戦争についての知識をあまりもっていないこの私でいいのだろうか、とても不安でした。それに、5年間の留学経験がくれたアイデンティティの揺らぎ＝時々「私は中国人だ」という意識をしなく（されなく）なったという葛藤を抱えている私は、このワークショップで何ができるかなどをずっと考えていました。まあ、通訳として、そこそこ気持ちをこめてやれば

いいんじゃないと、少し消極的・逃避的だったところもありました。

しかし、実際にワークショップに参加して、たくさん気づきや感じたものが出てきて、とてもすばらしい体験をさせていただいたと思います。

まず、大虐殺記念館を見学したり、生存者の証言と参加者の方々の戦争との関わり・思い出などを聞かせてもらったりして、今までで最高の歴史授業を受けたように感じます。その授業には、人物名や数字だけでなく、人の気持ち＝悲しみ、怒り、恥、愛もたくさん盛りこまれていて、感じながら勉強することができて、本当によかったと思います。

そして、ドラマセラピーで何かを演じると、子どもの頃にもどったようで、素直になれることに気づきました。それと同時に、私はいつ頃から大人というラベルをはられ、素直に感情表現することに違和感をもつようになったのだろうと考えさせられました。子どものようにピュアなころを持っていれば、すべてのことを許せるような気がします。

さらに、アイデンティティの葛藤を自分で受け止めることができるようになりました。ワークショップは、「私は中国人で、あなたは日本人（私たちは違うぞ）」みたいにはっきり線が引かれるものでなく、さまざまな共同作業で国籍や民族の違いを小さくし、人として共通する気持ちを引き出すようデザインされているので、その場にいるとなんとなくホッとします。

最後に、みなさんがこころを開いて気持ちをシェアしてくれて、本当にありがとうございました。臨床心理を勉強する前、どちらかというところのコミュニケーションが苦手だった私は、今回のグループの中で成長できたように思います。みなさんの感じたものと自分の気持ちと重なる部分が多し、きっと日本人の参加者も中国人の参加者も、言葉が通じなくても、その場で共通する何かを一緒に体験できたのだろうと思います。こころのコミュニケーションに、通訳はいらないと信じたいです。

貴重な体験をさせていただきまして、本当にありがとうございました。